

## カルフォルニア自動車事情

高橋 敦子（団長）

「アメリカの国の花は何？」「カーネーション、car nation(車の国)だから」というナゾナゾがあるぐらいアメリカは車社会。ニューヨークやボストンなど東部の都市では、バスや地下鉄などの公共交通機関が充実していて自動車がなくとも生活できますが、カリフォルニアでは車なしでは観光もままなりません。かつて日本の三大自動車メーカーのトヨタ・本田技研がトランスに米国拠点を置いていた縁も+あり、3週間弱の車社会の生活体験から考察してみました。

なんといっても道路が広い。車社会を前提とした都市設計で、住宅地でも車の走行に全く支障なく道の両側に車が止められ、駐車禁止の標識を見ることはありませんでした。日本に帰ってきて、行きには感じなかった成田空港から柏に向かう道の狭さに驚いたほどで、トランスから来たばかりの市柏 ELT も運転では道の狭さに苦戦しているそうです。

そしてカルフォルニアだけのルール、信号が赤でも車が来なければ右折（日本なら左折にあたる）できる！そのせいかカルフォルニアの運転免許証は他の州では通用せず、別途取得が必要になるそうです。また日本で発行している国際運転免許証がカルフォルニアでは使えず駐在員泣かせとのこと。

フリーウェイは本当に無料で4～8車線あり、一番左側の車線は carpool lane という二人以上乗っている車の優先車線です。それだけ車線があってもラッシュアワーはどこでも同じ、渋滞で動かないこともあり、「“駐車場”と呼ばれている」のジョークも首都高の渋滞と同じですが、東京の場合の“料金が同じ”は理解されませんでした。日本と違うのはトランスからサンディエゴまで約 200 kmの間にサービスエリアがないこと、トイレすらありません。同じ無料でもイギリスの高速道路には日本と同じようなサービスエリアがありますので、国民性の違いでしょうか。

代わりにフリーウェイ沿いによく見かけたのは、日本の自動車メーカーの大きな建物です。日本車は小型で燃費の良い大衆車と、インフィニティ（日産）・アキュラ（ホンダ）・レクサス（トヨタ）と高級路線の二本立てで、カルフォルニアの6車線のフリーウェイを走行しているのは圧倒的に日本車です。他にフォルクスワーゲン・アウディのドイツ車に時々ヒュンダイ・キアの韓国車、マツダ、スバルも健闘。トヨタの Tacoma という小型乗用トラック(Back to the future で最後に主人公のマーティがゲットした車)もよく見かけました。アメリカ車の中ではシボレーがポピュラーで私の二人のホストもそれぞれ一台持っていました。フォード・シボレー以外の GM は少数派で、トランプ大統領のいら立ちも理解できるというものです。

私が見かけた範囲では、全体的にアメリカ車は2割ぐらいでしたが、これはカルフォルニアの傾向で“中部はもう少し愛国的”だそうです。対向車の車種をチェックしていて、10台も日本車が連続とハラハラし、11台目にアメリカ車を見るときなぜかほっとする不思議な気持ちでした。日本車が支持されることは嬉しく、製品に対する信頼が日本という国への信頼、日本人への信頼に繋がっているように感じました。

